

10. 綾部市君尾山光明寺の文化遺産調査

濱野 覚生

京都府立大学文学部歴史学科では、2018年度より地域貢献型特別研究（ACTR）として、綾部市君尾山光明寺の総合調査を実施している（研究代表：横内裕人）。以下、今年度の活動状況を簡単に報告する。

1. 調査日程・参加者

- 日程 1回目 2024年10月22日（火）
 2回目 2024年11月16日（土）～17日（日）
 3回目 2024年12月21日（土）
 4回目 2025年2月16日（日）

参加者 岸泰子、横内裕人（以上教員）、正瑞千幸、濱野覚生（以上博士後期課程）、趙金実（博士前期課程）、岡橋莉奈、崎浜七夏（以上3回生）、藤村昂輝（研究生）

2. 調査内容

1回目は、綾部市立上林小中一貫校に地域住民6名を招き、聞き取り調査を実施した。上林中学校の生徒7名とともに昭和の仁王門修理や君尾山への想いなどについてうかがった。

2回目は、光明寺本堂において「君尾山光明寺歴史懇話会」を開催した。横内・岸・濱野・藤村が登壇し、光明寺の歴史や建築、仏像や古文書などの宝物について解説した。約40名の参加者に調査成果を伝えることができた。懇話会にて横内・岸および学生が地元ラジオのインタビューに応じる模様が11月28日に放送され、会の様子が地元の市民新聞で報道されたことで、調査の概要は広く周知された。

3回目は、「二王の栖」において、地域住民5名の協力のもと2回目の聞き取り調査を実施した。1回目の聞き取り調査で得られた情報をもとに、上林地域での昔の生活や君尾山での思い出などについて新たに聞き取りをおこなった。

4回目は、奥上林公民館にて成果報告会をおこなった（横内・岸・藤村）。



写真1 上林中学校での聞き取り調査



写真2 歴史懇話会での解説

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第 11 号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
